

ボックス ウェルBOX-右京

健康すこやか学級事業とは

表紙をかざる様々な健康すこやか学級事業は、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、お住まいの地域の学区社会福祉協議会が実施する介護予防の取組です。



塗り絵教室(嵯峨野社協)



弓削ふれあいラウンジ(京北社協)



高雄すこやかクラブ(高雄社協)



ラジオ体操(西院第二社協)

index :

- P2 右京福祉のまちづくり学校
- P4 右京区ボランティアセンター
- P7 令和3年度右京区社協決算報告
- P8 賛助会員ご加入のお願い



生活支援員募集

生活支援員募集! ~日常生活自立支援事業~

一人で判断することに不安がある認知症高齢者、知的障害・精神障害のある方が、地域で安心して生活するためのお手伝いをする「生活支援員」を募集しています。

「公共料金の支払い」「預貯金の払い戻しの同行・代行」「定期的な訪問により生活の変化など気づいたことを区社協に伝える」など計画に沿った内容を支援します。



一人ひとりを認め合う地域社会へ

令和4年9月2日（金）に右京福祉のまちづくり学校を行いました。昨年度は、コロナ禍の影響を受けて実施を見合わせましたが、令和4年度は130名を超える地域福祉関係者に参加頂くことができました。最初に、北九州を拠点に困窮者・ホームレス支援を行っている奥田知志さん（特定非営利活動法人抱樸（ほうばく）理事長）の動画視聴をした後、右京区で活躍する2団体（葛野社会福祉協議会・特定非営利活動法人加音西京極作業所）から活動報告をいただき、学びを深めました。

活動報告① 葛野社会福祉協議会

令和3年度重点活動プラン報告「あったかい地域の絆を深める」

葛野社会福祉協議会 会長 藤村 晓さん

葛野学区は、6,900世帯・人口12,300人の区内でも大規模な学区です。前回の国勢調査では、増加数が右京区内でもトップとなり、マンション建設等の影響で学区の規模が膨らんでいる状況について報告がなされました。そのような状況を受けて、子育て支援活動「赤ちゃんこんにちは」事業に取り組まれています。保健福祉センターと連携し、学区で生まれた新生児にお祝いの品（紙おむつ）とお手紙を一軒一軒訪問して届けることで、自治会や社協の活動に興味をもってもらい加入を呼びかけておられます。また、京都市見守り活動対象者名簿を活用し、コロナ禍で外出する機会が少なくなった高齢者に「あったかい絆の手紙」を小学校と連携し発信されています。藤村会長のアイデアと周囲の担い手の地道な努力で展開される取り組みをわかりやすく報告をいただきました。



活動報告② 特定非営利活動法人加音（かのん）

「地域の皆様に支えられてコロナ禍での障害者作業所の活動」

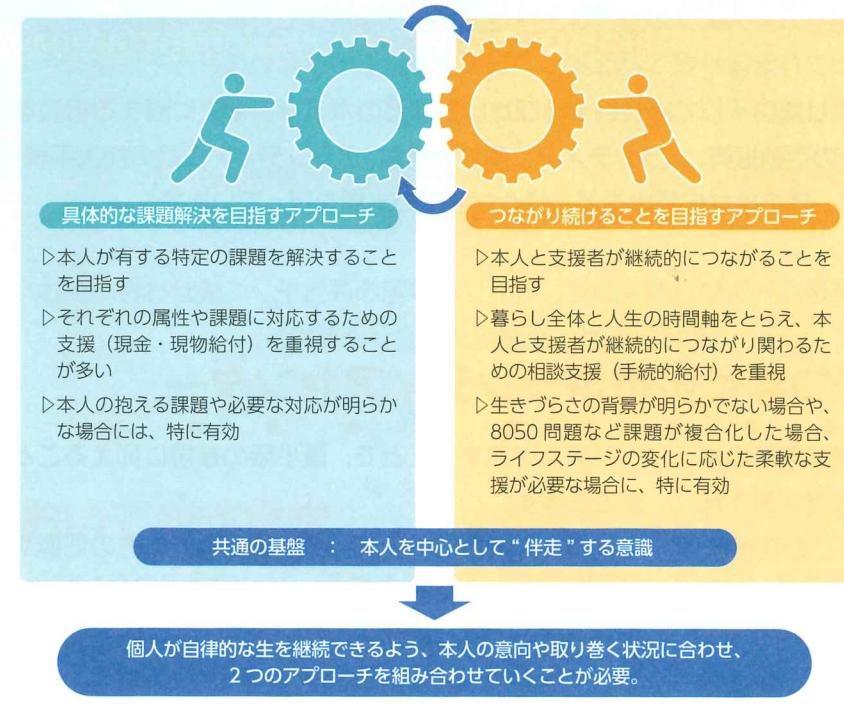
加音西京極作業所 所長 北村 雅子さん

作業所には、18歳～59歳までの24名の利用者と11名のスタッフが通っています。利用者は知的障がいや自閉症のある方で、作業所ではひとりひとりの障がい特性や症状に応じた個別支援を行っています。コロナ禍で主に行っていた「箱折り」や「お守り」の仕事がなくなってしまった後も、「仕事開拓会議」を行い、地域の役に立つ仕事をすることを皆で確認しました。少しずつ地域の人たちからの相談が増え「加音さんって何やってるの？」「加音さん〇〇の仕事できる？」と変化が生きてきました。「私たちも福祉を必要とされている地域の方の『伴走者』になりたい」「地域の方と共に協働したい」そんな思いを大切にした活動の様子を力強く報告をいただきました。



対人支援において今後求められるアプローチ

支援の“両輪”と考えられるアプローチ



▲厚生労働省令和元年12月「地域共生社会推進検討会議最終まとめ」より（一部修正）

奥田知志氏の動画視聴では、奥田さんが実践されている困窮者・ホームレス支援の現場から見えていることを端的に説明いただき、コロナ禍で人々の間を行きかう、感謝と排除という相反する構造について解説いただきました。厚生労働省も検討を進めている社会的孤立への着目と新しい支援論として「対人支援において今後求められるアプローチ」についても言及され、「つながり」から考える伴走型支援の効果や、8050問題について考えるきっかけとなりました。

特定非営利活動法人 加音西京極作業所

右京区にある障害のある方が通われている作業所（就労継続支援B型・生活介護・相談支援事業）です。

地域からの相談に柔軟に応じ、縫製やイラストを活かしたオリジナル製品も豊富です。

はっ！と驚かされる個性的な創作作品や、事業所で販売している情報をインスタグラムでも発信しています。



NPO.KANON



加音にはそんな言葉が似合う仲間たちがいます



▲水尾社協から依頼を受け、藤袴のにおい袋を縫いました



▲愛用者も多い加音リングノートは利用者の絵と嵯峨美術大学の学生のデザインで誕生しました



▲贈り物に喜ばれる竹炭消臭除湿巾着

右京区ボランティアセンター

ボランティアに関する相談はこちらまで! ➔

月～金曜日 9時00分～17時00分
TEL 075-865-8567 FAX 075-865-8569

ボランティアセンターでは「ボランティアしたい・してほしい・学びたい」などのボランティアに関する相談を受付けています。ボランティアグループ連絡会の活動振興、ボランティアに関する講座、ボランティア保険の加入手続き、助成金情報のご案内、車椅子やプロジェクター等の機材の貸出など、様々な活動の支援を行っています。

お気軽にご相談ください。

被災者とボランティアをつなぐ災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターとは、大規模災害時のボランティア活動拠点として設置され、区災害対策本部や地域と連携を取りながら、被災者の困りごとの把握、ボランティアの受入及びコーディネート等を行います。

近年災害が多く発生しておりますが、発災時はまず身の安全確保、家族の安否確認をし、近隣の要配慮者

への声かけをすることで、最小限の被害に抑えることができます。

日頃から近隣にお住まいの配慮が必要な方の把握やお声かけ、また災害ボランティア活動への地域の皆様のご理解とご協力を宜しくお願ひいたします。

右京区内のボランティア活動紹介

右京区内のボランティア活動ならびに地域社会におけるボランティア活動の推進を図ることを目的に活動しています。今回は、2つの右京区内のボランティア活動をご紹介します。

<ねんこり>

赤ちゃんとのかかわりに役立つ「わらべうた」や、絵本の読み語り、紙芝居などを通して、言葉と声のコミュニケーションを伝えることを目的に活動しています。また、図書館の利用の紹介、YouTube、SNSなどに京のわらべうたの配信や紹介を行っています。



<京北ボラグループ> 運転ボランティア

高齢者の送迎のための運転を、講習を受けたボランティアが担当。安全運転や、車の乗り降りの介助、車いすの使い方等の講習を受けて活動しています。

広範囲な京北地域での、通院や買い物、金融機関などへの送迎をしています。赤いベストがトレードマークです。



子どもの居場所づくり「支援の輪」サポート事業

子ども食堂や学習支援の場など、子どもやそのご家族を支える取り組みが拡がっています。

今後も、子どもの居場所が地域で継続して、安心して取り組まれていくために、子どもの居場所づくりに関するいろいろな「支援の輪」が拡がっていくことを目指し、以下の取り組みを進めていきます。

- ① 子どもの居場所の拡充
- ② 子どもの居場所運営支援
- ③ 子どもの居場所に関する啓発活動
- ④ 「気づきの窓口」サポート

お問い合わせ先　　子どもの居場所づくり「支援の輪」サポート事業
(京都市社会福祉協議会 地域支援部)　TEL: 075-354-8732

WEBサイト

<http://kyoto-kodomo.jp>

おいでやす食堂

「おいでやす食堂」は、高齢者福祉施設西院で開催しており、年代問わず誰でも参加できる食堂です。カレーがメインメニューですが、唐揚げやベビーカステラなども提供しています。コロナ禍により、現在はテイクアウトのみで実施しています。以前は、老若男女の皆さんが、100名以上参加をしてくださいり、参加者同士でお馴染みさんになっておられました。食堂のない日にも地域でお出会いになると、声をかけてくれる子どもさんもありました。このように、地域で顔見知りが増えていくことでみんなが安心して暮らせる地域になると考えています。



ことらいふ子ども食堂

グループプリビング「ことらいふ嵯峨野」にて、月に一度子ども食堂のために開放しています。「遊ぼう、親子での参加大歓迎！」どなたでも参加できます。

2022年10月現在はテイクアウトのみでの実施、毎年8月・12月・3月には、お楽しみ会を計画しています。写真は、建物奥にある中庭スペースで実施したクリスマス会の様子です。皆さんそれぞれ楽しんでおられました。

会場は、感染拡大防止をしております、マスクをしてお越しください。



赤い羽根共同募金 引き続き皆様の温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

共同募金は地域福祉活動における大事な財源となっています。皆様からの貴重な募金は京都府共同募金会に届けられ、高齢者、障害児者、子育て支援等の福祉活動に使われています。令和3年度は、8,189,359円の配分を受けて各種活動に助成しました。引き続き、共同募金へのご理解とご協力の程、よろしくお願ひします。



U-ネットご紹介

U-ネット（右京障害者就労・生活事業所ネットワーク）は、誰もが基本的人権を持つ個人として尊厳を尊重され共に生きる社会の実現を目指し活動を続け、今年度20周年を迎えました。10月27日には記念イベントを開催し、多くの方に御参加いただきました。

トーンチャイムの演奏や南京玉すだれの公演、毎月の福祉屋台で販売している商品の製造過程の紹介があり、参加された方に日頃の様子を知ることができました。

また、「共に生きる右京」をテーマにパネルディスカッションを行い、参加者の方と共に地域共生社会について考える機会となりました。

U-ネットでは、年8回の福祉屋台（サンサ右京1階ロビー）、年4回の展示即売会（イオンモール京都五条1階特設会場）の他、サンサ右京1階マチコでのU-ネット売店（平日9時30分～16時）などで、授産品を販売しております。お気軽にお立ち寄りください。



▲のぼりが目印です



思い思いの時間を過ごす「にこにこカフェ」が始まりました。

令和4年5月から右京区役所1階MACHIKOで、「誰もが自由に過ごせる居場所」が開設されました。

集まるみんなが「にこにこ」楽しく過ごせるように、想いを込めて名付けた「にこにこカフェ」。誰かとつながりたい、何かすることがほしい、安心できる居場所がほしいと思っている方がふらり立ち寄って、誰かと話をしたり、コーヒーを飲んで、ほっとできる場所を目指しています。

右京区内の団体や関係機関、学校など、様々な人に関わってもらいながら「つながる」工夫をしていきたいと思います。

ぜひ、お越しいただき楽しい時間を一緒に過ごしましょう！

開催日時：第4火曜日 13:30～15:30 申込不要（出入り自由）



もくもく作業①
北桑田高校京都フォレスト科と
連携したコースターみがき

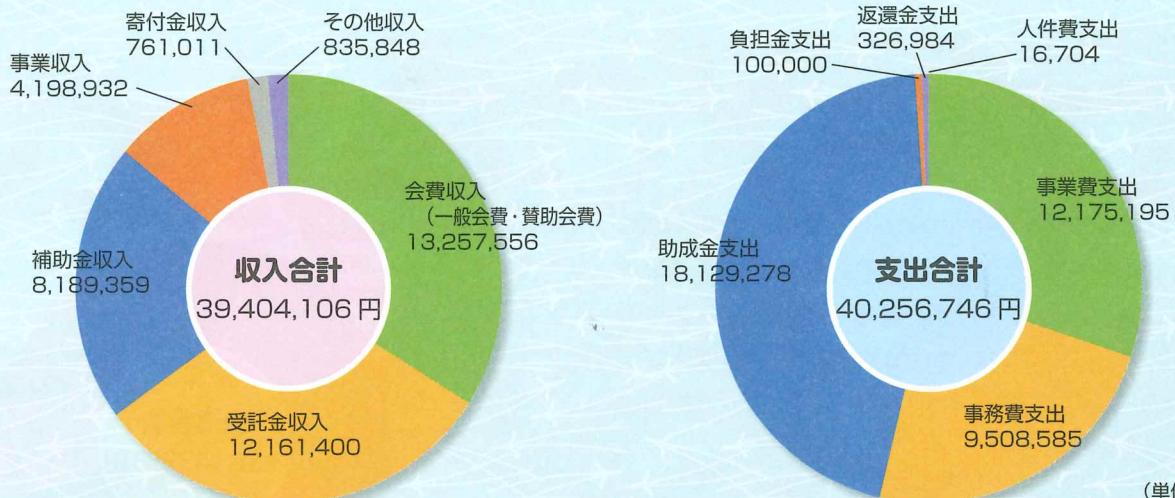


もくもく作業②
区内NPOと連携した
ラップスターチスづくり



気ままおやじ会右京の
コーヒー提供

令和3年度 右京区社協決算報告



(単位：円)

令和3年度事業報告書、収支決算書は本会ホームページに掲載しております。

令和4年度 事業計画

令和4年度は、令和2年度を初年度とした「第4期右京区地域福祉推進計画」に基づき、本会が掲げる基本理念である「誰もが『ひとりの人間』として尊重され、安心して暮らせるまちづくり」の実現に向けた基盤強化に努めます。

【基本目標】

地域の生活課題に対して、多様な人や組織と共に、対話を重ねながら、福祉のまちづくりへの交通理解を深めます

【目標達成に向けた推進課題】

- (1) 災害にも強い福祉のコミュニティづくりに向けて、地域と共に社協の強みを発揮した支援をすすめます
- (2) 生きづらさ（困窮・障害・複合問題等）を抱えている人への支援を通じて、汲み取った課題を地域と共有し、理解と連携をすすめます
- (3) 先駆性と開拓性を発揮し、住民が主体的に参画できる支え合い活動をすすめます
- (4) 多様な人や組織等がもつ強みを活かしながら、連携・協働による取組をすすめます

【重点項目】

- 1 地域福祉活動計画の着実な推進
 - ・学区社協重点活動プランに基づいた地域福祉活動の推進
 - ・法人運営に関する諸会議の開催
 - ・社協の総合力とネットワークを活かした連携・協働
- 2 関係機関、団体・施設等との連携・協働
 - ・社会福祉法人と連携した創意工夫による取組
 - ・福祉のまちづくり体制整備事業との連携
 - ・ミュニティカフェ等の先駆性・開拓性・柔軟性をもった活動の創出と支援
- 3 持続可能な法人運営
 - ・助政と収支バランスの均衡化と効率的効果的な業務推進
 - ・京北地域福祉有償運送サービスの財源確保と持続可能な事務所運営の検討
 - ・指定管理事業である京都市うずまさ学園・京都市太秦障害者デイサービスセンターの総括と社会福祉充実計画の着実な実行

地域福祉活動へのご寄付をいただき、ありがとうございました。（令和3年8月～令和4年7月）

- ・株式会社阪急オアシス 様
- ・株式会社信天堂 様
- ・中野美舞 様
- ・京都府女性の船「ステップあけぼの」京北 様
- ・太秦農事研究会 様

京都市うずまさ学園について

京都市うずまさ学園及び京都市太秦障害者デイサービスセンターは、平成14年度より本会が運営し、指定管理者制度導入後も、指定管理者として運営して参りました。次期（令和5年度から6年間）指定管理者に「社会福祉法人京都障害者福祉センター」が選ばれ、令和5年4月より同法人が運営にあたることになりました。永年にわたり、京都市うずまさ学園をお支えいただき、誠にありがとうございます。運営法人が変わりましても、変わらず学園をお支えいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

令和4年度 右京区社協・賛助会員 ご加入のお願い

誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりのために……
地域の福祉活動をすすめる財源に、ご協力をお願いします。

賛助会員制度とは？

右京区社協では、区民の皆様のご理解と参加・応援のもとで、区社協と学区社協が取組む地域福祉活動を充実させるため、賛助会員を募集しています。賛助会員とは、区社協と学区社協の活動の趣旨・目的に賛同し、区内の地域福祉活動を財政的にご支援いただく“地域福祉の応援団”です。

社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会（以下、社協）は、地域住民や社会福祉関係者の参加により、地域福祉の推進の役割を担い、さまざまな活動をおこなう非営利の民間組織です。京都市では市・区・学区の三層の社協活動を推進し、学区社協が最前線となり居場所づくりや見守り活動、相談事業等を展開し、市・区の社協が学区社協活動の後方支援を行っています。

コロナ禍であっても地域の絆を絶やさない活動を継続すべく、感染予防策をとりながら、出来る内容を工夫して順次活動を再開しています。

《賛助会員募集期間》

令和4年12月～令和5年2月

《賛助会費》

個人 一口 500円／年（1口以上）

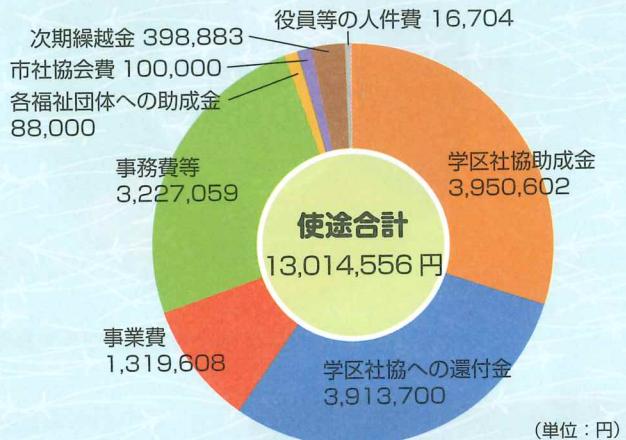
団体・企業 一口 10,000円／年（1口以上）

※納入方法は、お住まいの学区によって異なります。詳しく

は、学区役員などお世話いただく方等にお尋ねください。

※個人・団体・企業等で、領収書（税控除付、区社協会長名）が必要な場合は、区社協にお尋ねください。

令和3年度 賛助会員の使途内訳



(単位：円)

令和3年度 賛助会員募集実績一覧

学区名	賛助会費(円)
太秦	2,326,000
南太秦	491,000
常磐野	695,050
安井	657,000
嵯峨野	808,200
山之内	490,100
西院第一	464,316
西院第二	686,500
梅津	376,655
北梅津	473,100
嵯峨	1,124,400
広沢	539,500
合計	13,014,556

《個人情報の保護について》

本会は、社会福祉法人京都市右京区社会福祉協議会「個人情報保護規程」により、個人情報の適正な取得と管理に努めます。（賛助会員募集にあたってお受けした個人情報は、募集事務のみに利用し、それ以外に使用することはありません。また、その管理につきましても適正に行います。）

住 所／〒616-8511 京都市右京区太秦下刑部町12
右京区総合庁舎5階

連絡先／TEL：(075)865-8567 FAX：(075)865-8569
E-mail：info@ukyoku-syakyo.net

Web／<https://www.ukyoku-syakyo.net>



発 行／社会福祉法人 京都市右京区社会福祉協議会・
右京区ボランティアセンター

発行人／高屋宏章

編集人／永田潤平